

三郷市版人口ビジョン

令和 1 年 8 月

目次

I	はじめに	3
	（１）趣旨	3
	（２）人口ビジョンの位置づけ	3
	（３）人口ビジョンの対象期間	3
II	人口動向の現状分析	4
	1. 総人口・世帯数の推移	4
	2. 年齢5歳階級別人口の推移（人口ピラミッドから）	5
	3. 人口動態（出生数、死亡数、転入数及び転出数の推移）	7
	（１）全体の概況	7
	（２）自然動態（出生・死亡）	8
	（３）社会動態（転入・転出）	9
	4. 出生率・女性の年齢別出生率	12
	5. 三郷市の特徴に関する分析	13
	（１）中央地区の人口動向	13
III.	将来人口の推計と分析	14
	1. 推計の考え方	14
	（１）コーホート要因法とは	14
	（２）推計手法と係数の設定について	14
	（３）推計の考え方について	18
	（４）今後人口増が予想される区域の補正	20
	2. 推計結果	21
	（１）全体推計結果	21
	（２）「目標とする人口推移」における年齢階層別人口	23
	（３）「現状に準拠する人口推移」における年齢階層別人口	24

I はじめに

(1) 趣旨

少子高齢社会の進行に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、将来にわたり活力ある地域社会を維持していくため、平成 27（2015）年に策定した「三郷市人口ビジョン」を見直し、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等を勘案しつつ、本市における人口の現状と将来の展望を提示する「三郷市版人口ビジョン（以下、「人口ビジョン」）」を策定します。

(2) 人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョンは、本市における人口の現状を分析するとともに、人口の将来展望を提示、人口に関する市民の認識の共有を目指します。

また、三郷市版総合戦略（以下、「総合戦略」）において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で、重要な基礎資料として位置づけられます。

(3) 人口ビジョンの対象期間

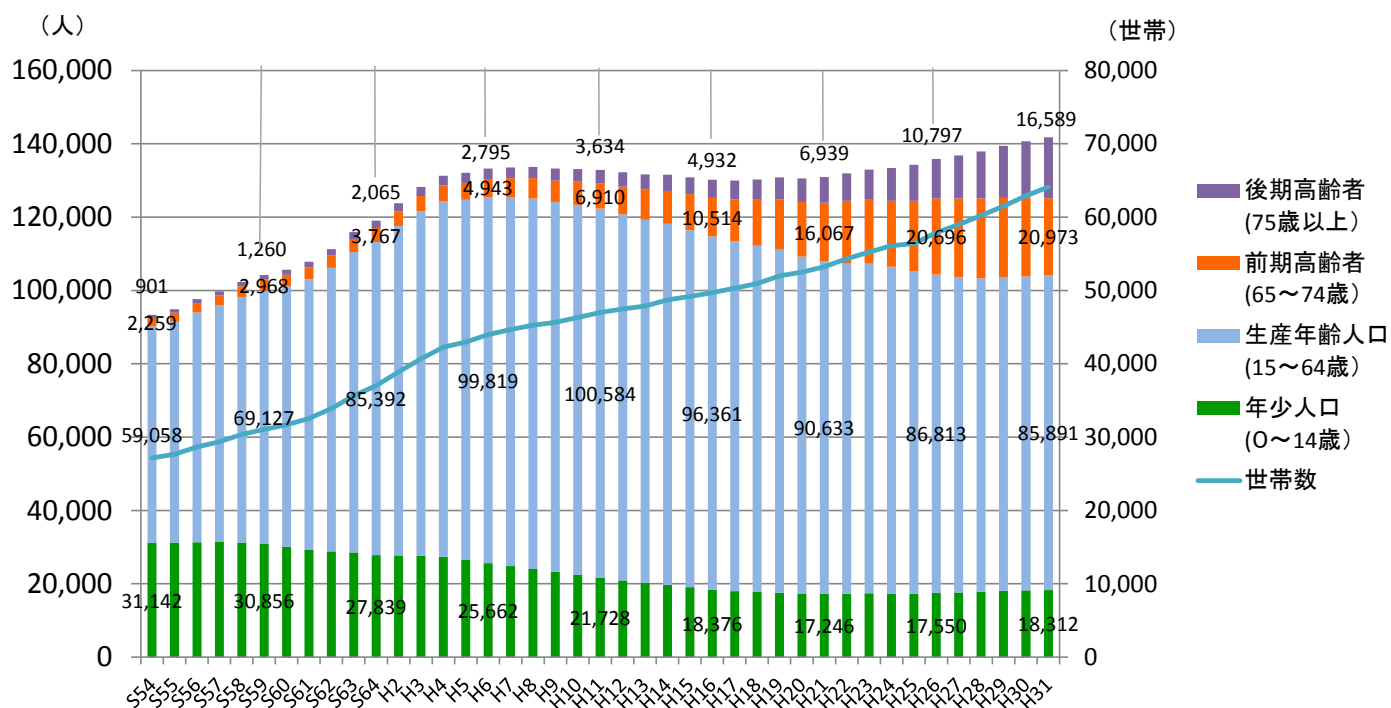
人口ビジョンは令和 2（2020）年度から令和 47（2065）年度の 45 年間とします。

II 人口動向の現状分析

1. 総人口・世帯数の推移

- 平成 6 年までは人口増が続いていましたが、平成 7（1995）年から平成 17（2005）年までは緩やかな人口減少傾向に転じました。
- その後、人口は再度増加傾向となっており、特に平成 27（2015）年以降は人口の伸びが大きくなっています。
- 世帯数は、継続的に増加傾向となっています。
- 年齢別では、従来は年少人口が高齢者人口を大幅に上回っていましたが、平成 18 年に高齢者人口が上回りました。
- 近年では、65 歳から 74 歳までの前期高齢者人口はほぼ横ばいですが、75 歳以降の後期高齢者人口は増加しています。

◆昭和 54（1974）年から平成 31（2019）年までの総人口・世帯数の推移

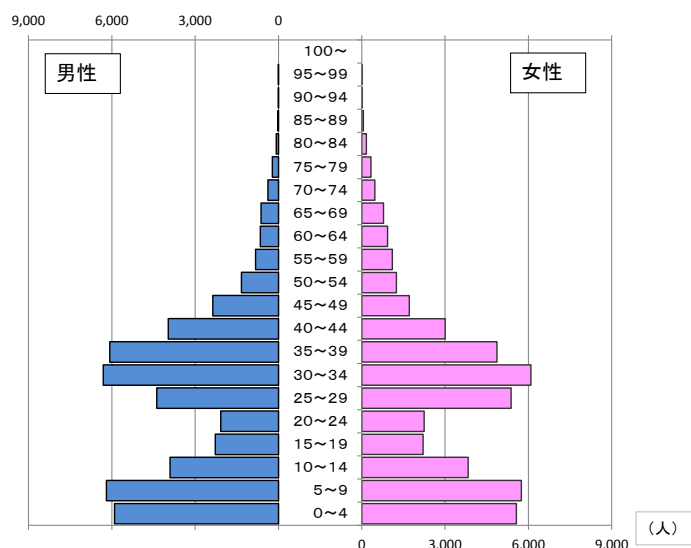


資料：住民基本台帳人口（各年 4 月 1 日人口）

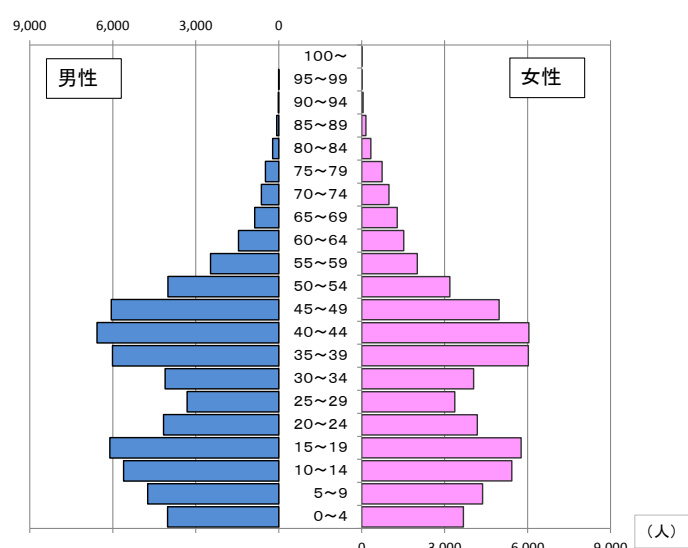
2. 年齢5歳階級別人口の推移（人口ピラミッドから）

- 本市では、昭和 54（1979）年と、平成 31（2019）年までの人口推移を 10 年ずつ人口ピラミッドで表現すると、昭和 54（1979）年では 30 歳代と 0～9 歳の人口が極端に多かったのが、年齢が時間の経過とともに、最も多い年齢が上がっていく状態となっています。
- なお、三郷中央駅周辺の「中央 1 丁目」の人口ピラミッドをみると、昭和 54（1979）年の人口ピラミッドと大変似ています。
- 一方、三郷団地の一部となる「彦成三丁目」では 65 歳から 74 歳までの「前期高齢者」の割合が非常に高くなっています。今後は時間の経過とともに後期高齢者に移行することで、介護需要等が急増することが予測されます。

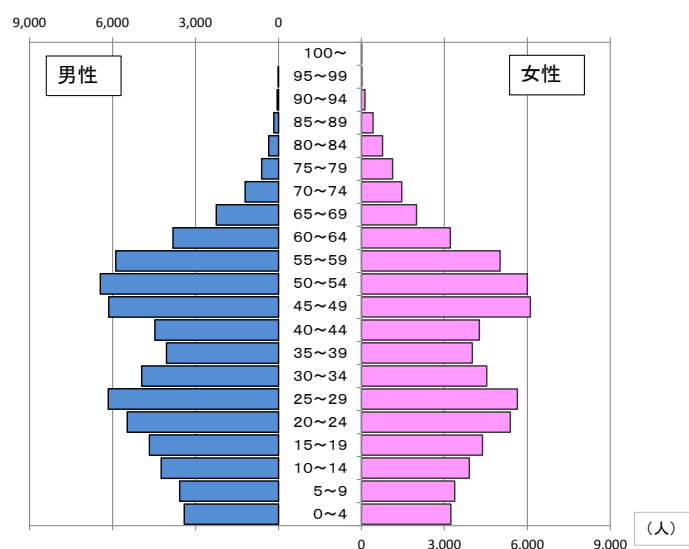
◆三郷市の人口 昭和 54（1979）年



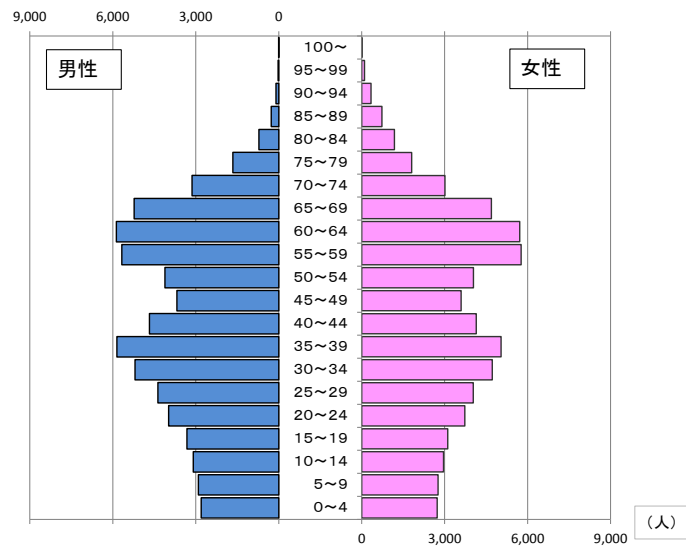
◆三郷市の人口 平成元（1989）年



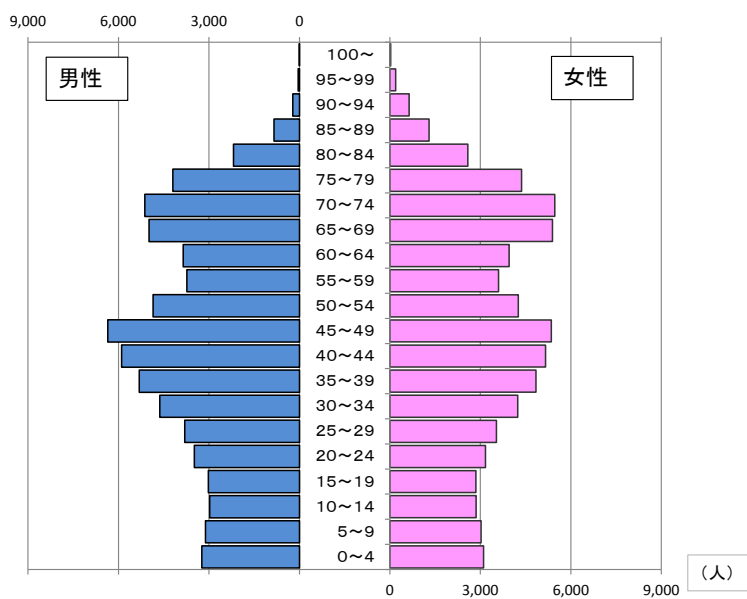
◆三郷市の人口 平成 11（1999）年



◆三郷市の人口 平成 21（2009）年



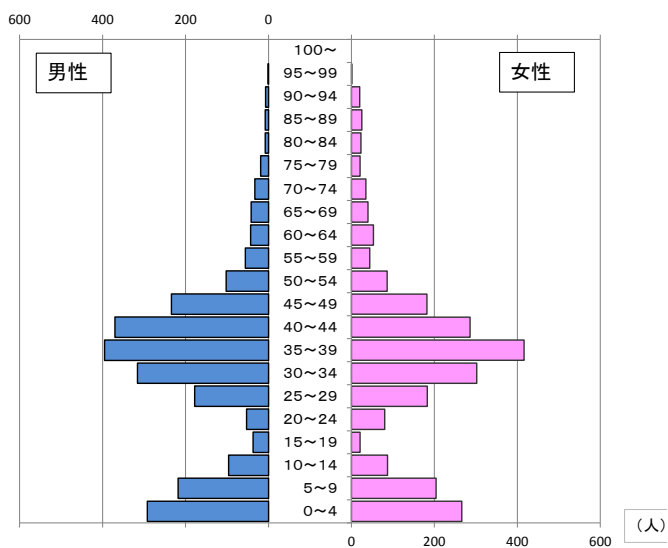
◆三郷市の人口 平成 31（2019）年



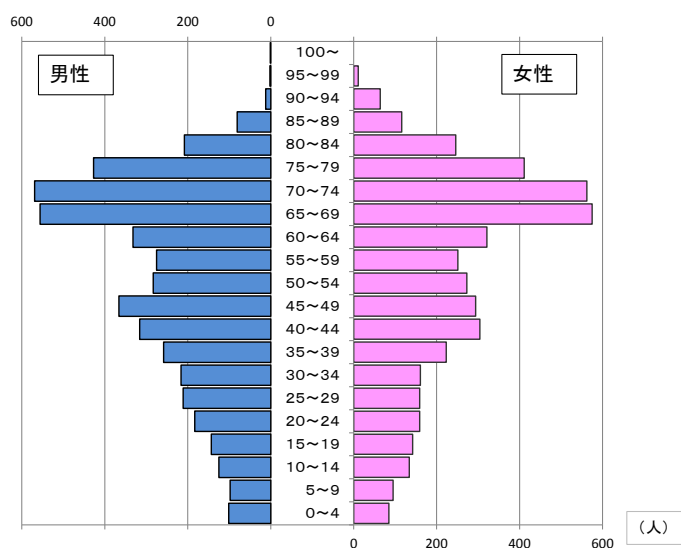
資料：住民基本台帳人口（各年 4 月 1 日人口）

■三郷市の特徴的な地区の人口ピラミッド/平成 31（2019）年

◆中央 1 丁目（三郷中央駅周辺）



◆彦成 3 丁目（三郷団地）



資料：住民基本台帳人口（4 月 1 日人口）

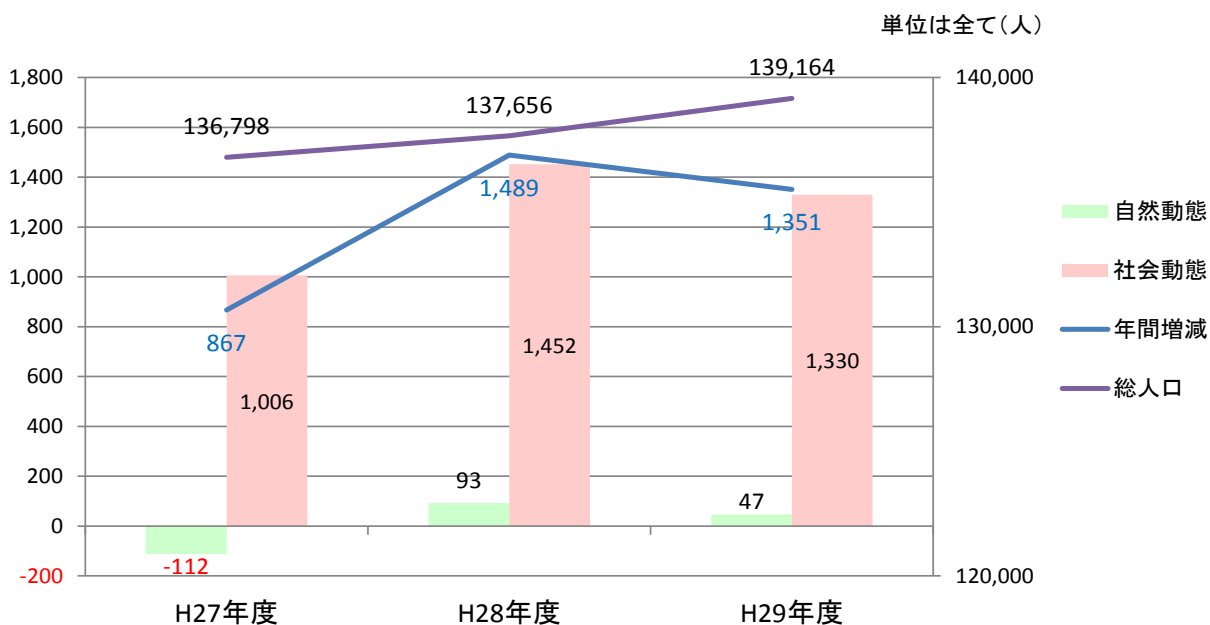
3. 人口動態（出生数、死亡数、転入数及び転出数の推移）

（1）全体の概況

- 人口の動態は、平成 27（2015）年度は自然減、社会増でしたが、その後は自然増、社会増に転じています。
- なお、自然増は全体的な傾向としては減少している反面、社会動態では平成 28（2016）年度以降は 1,300 人以上の転入増となっています。

◆人口動態

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
年間増減	867	1,489	1,351		
自然動態	-112	93	47		
出生	1,217	1,170	1,183		
死亡	1,329	1,077	1,136		
社会動態	1,006	1,452	1,330	1,440	
転入	6,584	6,869	7,264	7,293	
転出	5,578	5,417	5,934	5,853	
その他	-27	-56	-26		
増加	155	142	189		
減少	182	198	215		
総人口	136,798	137,656	139,164	140,100	141,780

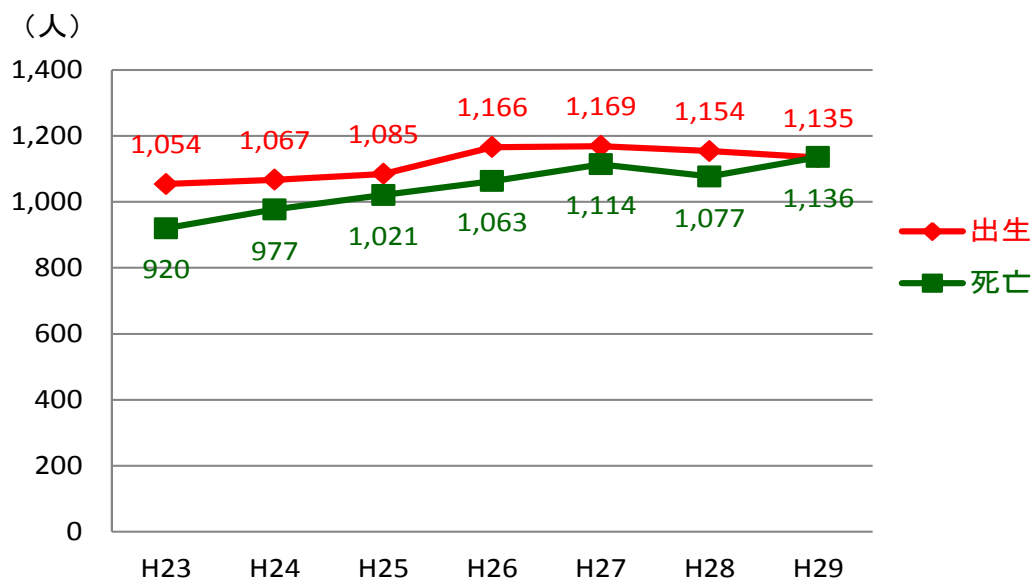


資料：「みさと統計書」から作成、但し、平成 30 年度の社会動態のみ住民基本台帳移動報告
いずれも住民基本台帳人口のため、外国籍市民を含む
網掛けは統計データが未発表（各年 4 月 1 日～3 月 31 日の累計）

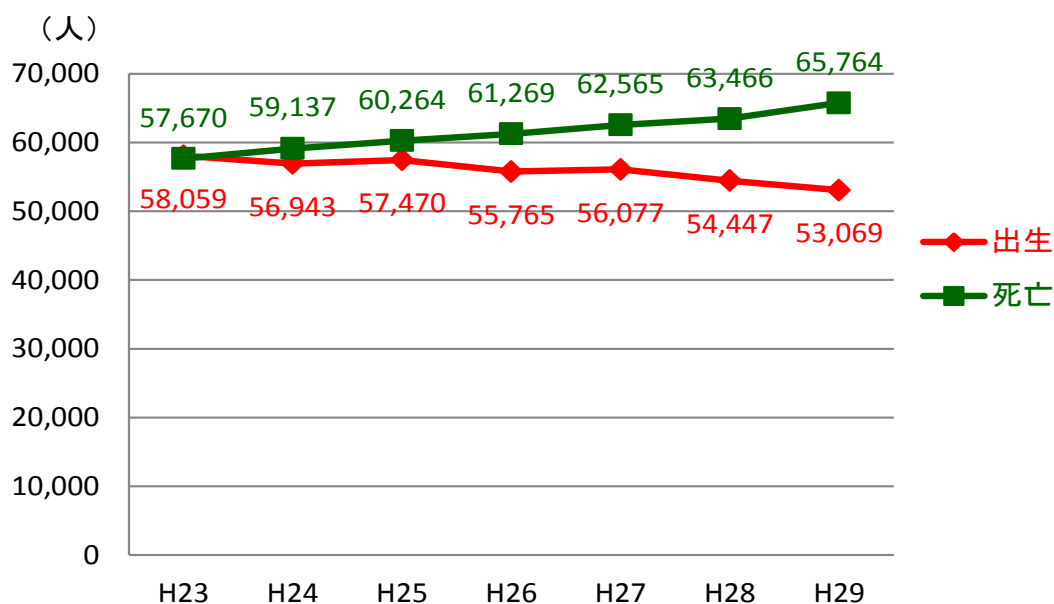
(2) 自然動態（出生・死亡）

- 人口の自然動態は、従来は「出生」が「死亡」を上回っていましたが、高齢化の進展による死亡数の増加と、出生者数が平成 27（2015）年をピークに微減傾向に転じたことで、平成 29（2017）年に初めて死亡数が出生者数を上回っています。
- 埼玉県全体では、三郷市より 5 年早い平成 24（2012）年で「死亡」が「出生」を上回っています。また、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向となっています。

◆自然動態



◆（参考）埼玉県全体



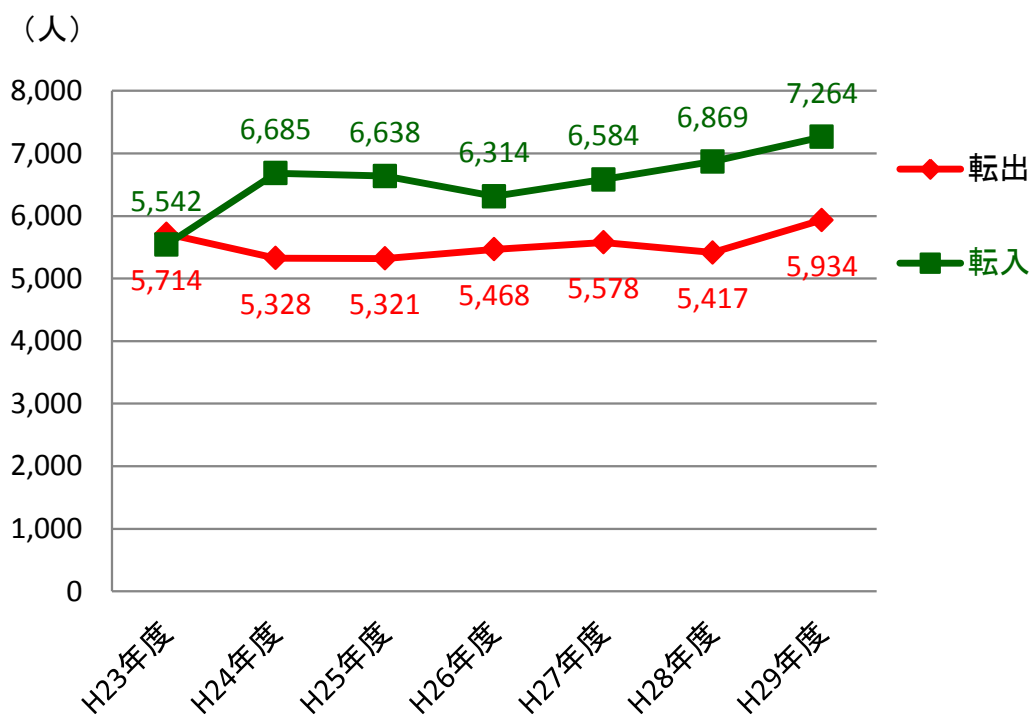
資料：厚生労働省「人口動態統計」、各年 1 月 1 日～12 月 31 日の累計

（３）社会動態（転入・転出）

① 概況

・人口の社会動態は、平成 23（2011）年はわずかに転出超過でしたが、平成 24（2012）年以降は転入超過に転じました。その後も転入超過の傾向が続き、平成 29（2017）年には約 1,300 人の転入超過となっています。

◆社会動態

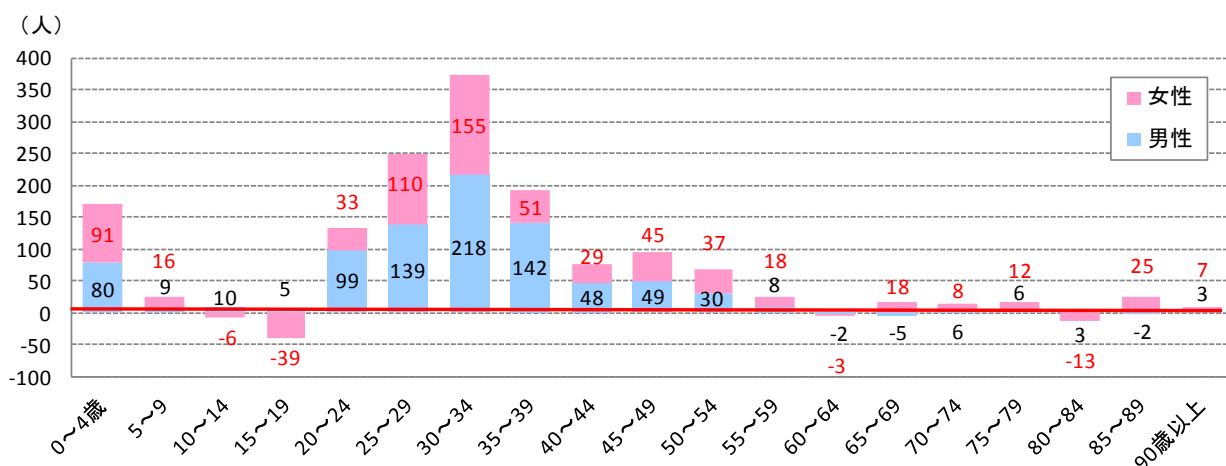


資料：統計みさと（市民課）、各年4月1日～3月31日の累計

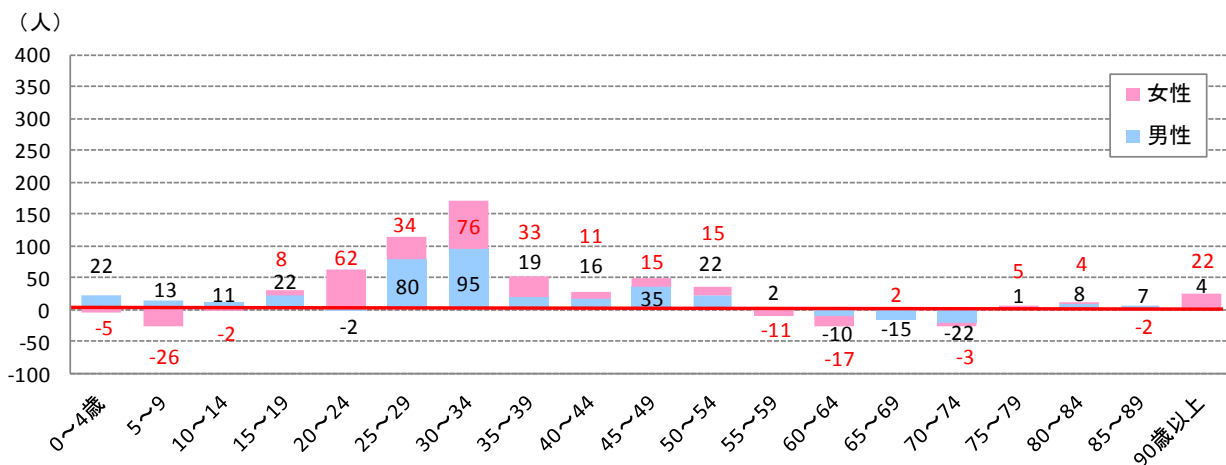
② 年別での傾向

- 人口の社会動態を年齢別でみると、平成 30（2018）年では、0～4 歳及び 25～39 歳が大幅な転入超過となっています。
- これを 3 年前の平成 27（2015）年と比較すると、転入超過者数が大幅に増加しており、この 3 年間で若い世代の本市への転入が進んだことがわかります。

◆年齢別転入者数、転出者数との差（平成 30 年）



◆(参考)年齢別転入者数、転出者数との差（平成 27 年）



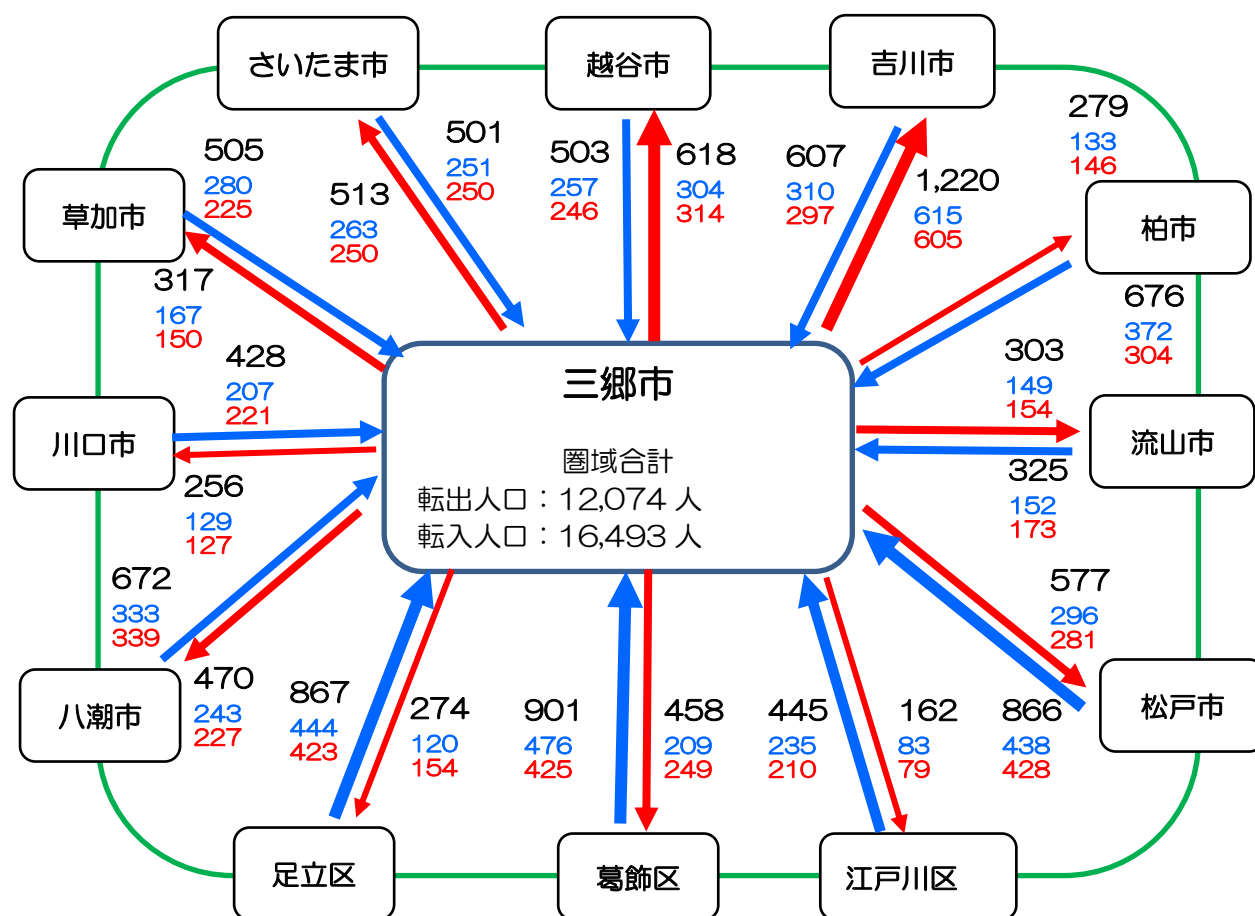
資料：住民基本台帳移動報告（1月1日～12月31日の累計）

平成 27 年は日本人のみの移動

③ 転入元、転出先

- 三郷市では、転入超過となっており、近年人口の流動が大きくなっています。
- 平成 27（2015）年では、人口の流入が多いのは、葛飾区、足立区、松戸市にて多くなっています。
- 人口の流出は、吉川市、越谷市への転出が多くなっています。

◆平成 27（2015）年 直近 5 年間に於ける圏域での転入・転出



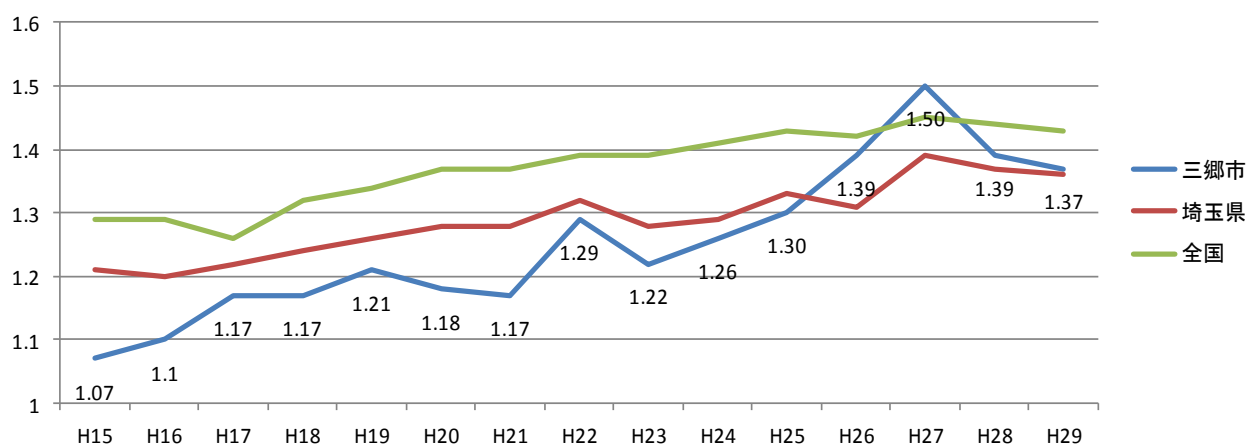
資料：平成 27 年国勢調査（5 年前の常住の市区町村との比較、黒字が総数、青字が男性、赤字が女性）

← 転入 ← 転出

4. 出生率・女性の年齢別出生率

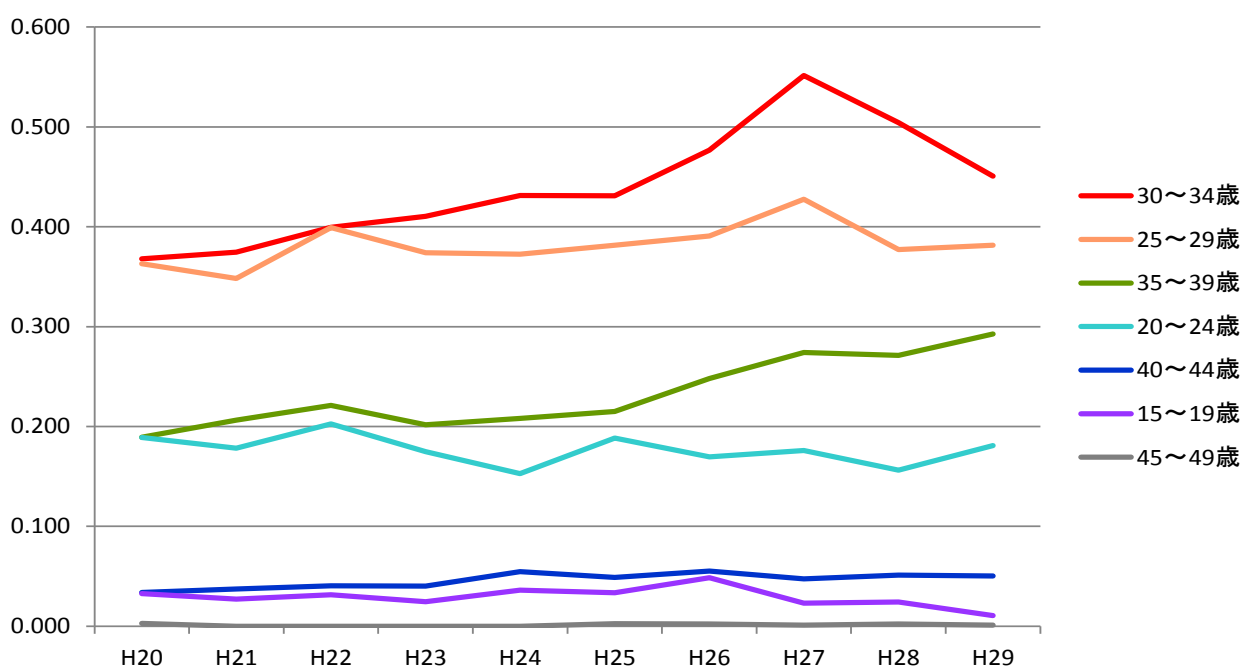
- ・近年本市では合計特殊出生率が上昇しており、平成 29（2017）年では 1.37 と埼玉県平均よりわずかに上回っています。
- ・また、年別での出生率をみると、いずれの年でも 30～34 歳が最も多く、次いで 25～29 歳の順となっています。
- ・最近の数年では、35～39 歳の出生率が上昇傾向となっています。

合計特殊出生率の推移



	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
三郷市	1.07	1.1	1.17	1.17	1.21	1.18	1.17	1.29	1.22	1.26	1.30	1.39	1.50	1.39	1.37
埼玉県	1.21	1.2	1.22	1.24	1.26	1.28	1.28	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39	1.37	1.36
全国	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

年齢別出生率の推移



資料：人口動態統計（各年 1 月 1 日～12 月 31 日）

5. 三郷市の特徴に関する分析

(1) 中央地区の人口動向

- 中央地区の人口動向をみると、平成 28（2016）から平成 31（2019）年まで3ヶ年で、人口が4千人以上増加しています。
- その理由としては、マンション開発等が進み、そこに定住する人が増加したことが特徴となっています。

中央地区の人口動向

(人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
中央1丁目	3,791	4,104	4,640	4,940
中央2丁目	1,371	1,508	1,769	1,955
中央3丁目	1,593	1,798	1,918	1,981
中央4丁目	668	1,187	1,361	1,731
中央5丁目	1,223	1,556	2,056	2,469
合計	8,646	10,153	11,744	13,076

資料：住民基本台帳人口（各年4月1日人口）

Ⅲ．将来人口の推計と分析

1．推計の考え方

（１）コーホート要因法とは

- ・コーホート要因法とは、ある年度の人口をもとに、将来に向かって、加齢、出生、死亡、移動（転出入）の要素を算定し、将来推計を行う方法です。
- ・現在の人口を基準として、一定年度以降の人口を、生残率（ここでは１年後に生き残る比率）、移動率（転入、転出の状況設定をする比率）、出生率等の設定により計算する方法です。
- ・なお、人口推計にあたっては、１年単位と５年単位で推計する方法がありますが、本市のように人口の変動が激しい場合、１年単位の推計が望ましいと考えられます。

（２）推計手法と係数の設定について

- ① 推計手法
 - ・市内 91 町丁目別にコーホート要因法にて推計しています。
- ② 使用した人口データ
 - ・平成 31（2019）年 4 月と平成 28（2016）年 4 月の住民基本台帳人口の男女別・年齢別 1 歳階級別データを使用しています。
- ③ 生残率
 - ・平成 29（2017）年度に国立社会保障・人口問題研究所で示された本市の生残率を使用しています。
- ④ 出生率
 - ・5 歳階級別の国全体の出生率を基本として、本市と国全体との合計特殊出生率の違いに応じて補正しています。
- ⑤ 移動率
 - ・平成 31（2019）年 4 月と平成 28（2016）年 4 月の実績値をもとに、封鎖推計（出生、死亡のみで社会移動を考慮しない推計）を行い、実際の人口と比較して移動率を算出しています。
 - ・ただし、中央 1～5 丁目地区、インター A 地区は、令和 12（2030）年までは封鎖推計（社会移動を 0 とした推計）あるいは開発以外の人口増の数値を抑え、それに開発人口を加算する手法をとっています。



合計特殊出生率とは

合計特殊出生率は「15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性とその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当します。

算定方法は２種類ありますが、本推計では、１年間における各年齢（15～49 歳）の女性の出生率を合計したものです。

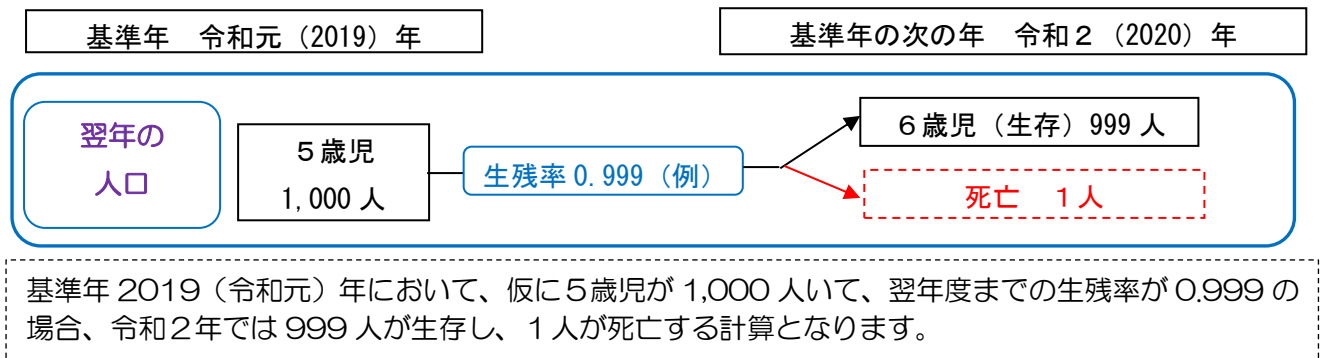
① 生残率について

生残率は、「次年度（あるいは5年後）に生き残る人」の割合です。

なお、今回は毎年の数値を算出するため、各年齢単位での推計を行っていますので、今回使用した「生残率」は、翌年までに生き残る人の割合となります。

国立社会保障・人口問題研究所で発行した「都道府県別 将来推計人口平成 29（2017）年」の中で位置づけられている本市の生残率を使用しています。

図 生残率の考え方（5歳で例を示します）



② 出生率について

出生率について、通常は国立社会保障・人口問題研究所が自治体ごとに示す「子ども女性比」を利用するケースが多くなっています。

しかし、子ども女性比は、15～49歳の女性の人口がほぼ同数の場合には問題ない手法ですが、本市の15～49歳の女性の人口は地区により大きく異なるため、全ての年齢で一律の比率を乗じて子どもの人数を算出すると、実際の出生数より、過大、過小な推計になることが予測されます。

そのため、今回の出生率の推計にあたっては、「5歳階級別に出生率を設定」して、将来の子どもの人数を設定しています。



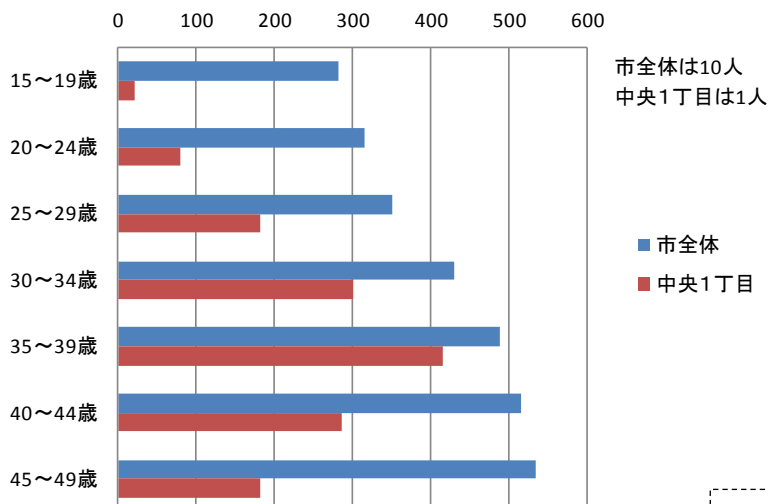
(ケーススタディ) 中央1丁目で、子どもの人数を
「子ども女性比」と「5歳階級別の出生」を設定して試算

現在、人口が急激に増加している中央1丁目で、15～49歳の女性の人口をもとに、子どもの人数を推計しました。

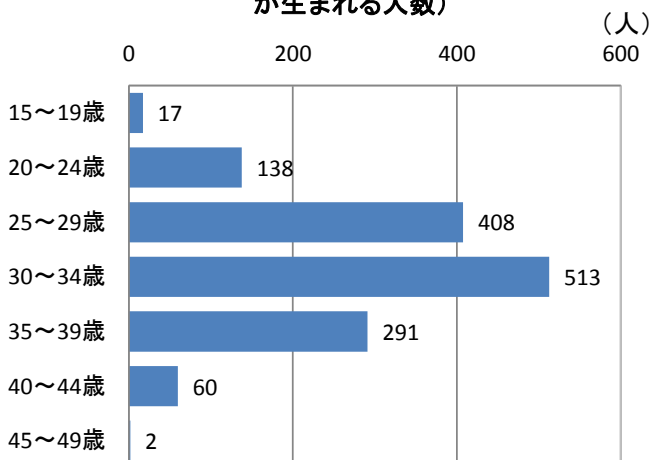
その結果、「子ども女性比」での計算では、子どもの人数が 56人
「5歳階級別に出生率を設定した場合」は、子どもの人数が 74人
となります。

実際の0歳児の人数は 102人であるため、「5歳階級別に出生率を設定した場合」より多いのですが、その中には0歳時点での転入もあるため、「5歳階級別に出生率を設定した場合」の方が現実に近いものと読み取れます。

女性の人口分布の違い



出生率(5年間のうち、1000人の女性から子どもが生まれる人数)



子ども女性比は、三郷市全体の人口をもとに推計しているため、本来はいわゆる団塊ジュニアの世代である40歳代の女性人口が最も多い設定となっています。しかし、中央1丁目のように、30歳代の女性人口が最も多い場合、「子ども女性比」で子どもの人数を求めると、非常に子どもの人数が少なくなります。そのため、5歳ごとの年齢別の出生率をもとに、その年齢の女性人口を掛け合わせて、将来の0歳児人口を求める方が適切と考えられます。

資料：人口動態統計（平成29年）（1月1日～12月31日）

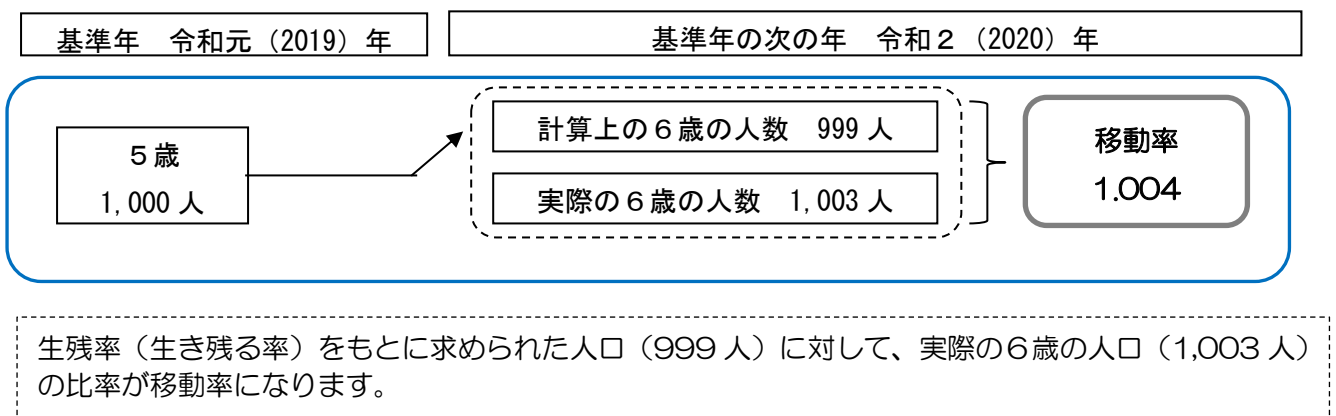
③ 移動率について

移動率は、平成 29（2017）年に国立社会保障・人口問題研究所で示された本市の移動率は使わず、平成 28 年 4 月の人口をもとに、社会移動を 0 としたいわゆる「封鎖人口推計」で、平成 31（2019）年 4 月の値を求めた上で、実際の人口と比較して移動率を求めています。

ただし、中央 1～5 丁目地区は、近年の人口増加が著しく、通常の推計手法で計算してしまうと、45 年後には地区の人口が 100 万人を超えてしまうなど、不自然な推計結果になります。そのため、社会移動については、令和 12（2030）年までは封鎖推計（社会移動を 0 とした推計）をした上で、開発人口のみ加算しています。

今回の方法は、最近の本市の人口動態を適切に反映したものになるため、より適切な人口推計が出来ることが利点となっています。

図 移動率の考え方（5 歳で例を示します）



（３）推計の考え方について

今回、人口推計を行うにあたり、平成 27（2015）年度に三郷市で策定した「人口ビジョン」との連続性を考慮するため、「目標とする人口推移」と「現状に準拠する人口推移」の２つの考え方で推計をしています。

目標とする人口推移：市外からの人口誘導施策がある程度適切に機能することで、三郷中央駅周辺及びインターＡ地区で開発人口を見込む

- ・合計特殊出生率は、平成 29（2017）年において、本市の周辺で最も合計特殊出生率が高い自治体の 1.58 を令和 12（2030）年から令和 47（2065）年まで適用するパターンです。
- ・なお、令和 2（2020）年は 1.38、令和 3（2021）年は 1.40、令和 4（2022）年は 1.42、令和 5（2023）年は 1.44、令和 6（2024）年は 1.46、令和 7（2025）年には 1.48、令和 8（2026）年には 1.5、令和 9（2027）年には 1.52、令和 10（2028）年には 1.54、令和 11（2029）年には 1.56 と段階的に設定しています。
- ・三郷中央駅周辺（以下：中央地区と表記）は、開発人口を 3,920 人見込んだ上で、令和 5（2023）年までは社会移動率を大幅に抑えた移動率で、その後は中央地区を除く市全体の移動率を適用しています。
- ・開発が進んでいるインターＡ地区については、現在の用途地域の状況や、集合住宅の建設状況を勘案し、令和 12（2030）年まで封鎖推計を行った上で、開発人口を 1,700 人加算しています。

現状に準拠する人口推移：開発人口は三郷中央駅周辺を見込み、合計特殊出生率も現状に近い数値で推移する

- ・合計特殊出生率は、現時点での 1.35 を令和 47（2065）年まで適用するパターンです。
- ・中央地区は、令和 12（2030）年までは封鎖推計を行い、その後は中央地区を除く市全体の移動率を適用しています。
- ・本推計では、インターＡ地区の開発人口は見込まないものとなっています。

表 推計条件のまとめ

	合計特殊出生率	中央地区開発	インターA地区開発
目標とする 人口推移	令和 2 (2020) 年は 1.38 令和 3 (2021) 年は 1.40 令和 4 (2022) 年は 1.42 令和 5 (2023) 年は 1.44 令和 6 (2024) 年は 1.46 令和 7 (2025) 年は 1.48 令和 8 (2026) 年から 1.5 令和 9 (2027) 年から 1.52 令和 10 (2028) 年から 1.54 令和 11 (2029) 年から 1.56 令和 12 (2030) 年から 1.58	令和 5 (2023) 年ま では社会移動率を大幅 に抑え、その後は中央 地区を除く市全体の移 動率を適用、開発人口 は 3,920 人	令和 12 (2030) 年ま で封鎖推計を行った上 で、開発人口を 1,700 人加算
現状に 準拠する 人口推移 (合計特殊 出生率 1.35 固定)	各年とも 1.35	令和 12 (2030) 年ま で封鎖推計 開発人口は 3,920 人	なし

(4) 今後人口増が予想される区域の補正

- ・ここでは、今後人口増が予測される区域の開発人口を位置づけました。
- ・特に中央地区が、この数年間のマンション建設により、空き地等は少なくなっているものの、既存の空き地や、既存工場等の撤退等により今後も新規マンション等の立地がある程度発生すると予測されるためです。
- ・また、インターA地区についても、すでに事業は完了し、人口も増加傾向となっておりますが、現状では計画人口に対して、実際の人口が半分以下のため、引き続き開発を見込みました。

表 開発人口の設定（目標とする人口推移）

	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	(人) 計
中央地区	600	450	430	430	380	380	250	250	250	250	250	3,920
インターA地区	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	1,700
合計	755	605	585	585	535	535	405	405	405	405	405	5,620

表 開発人口の設定（現状に準拠する人口推移）

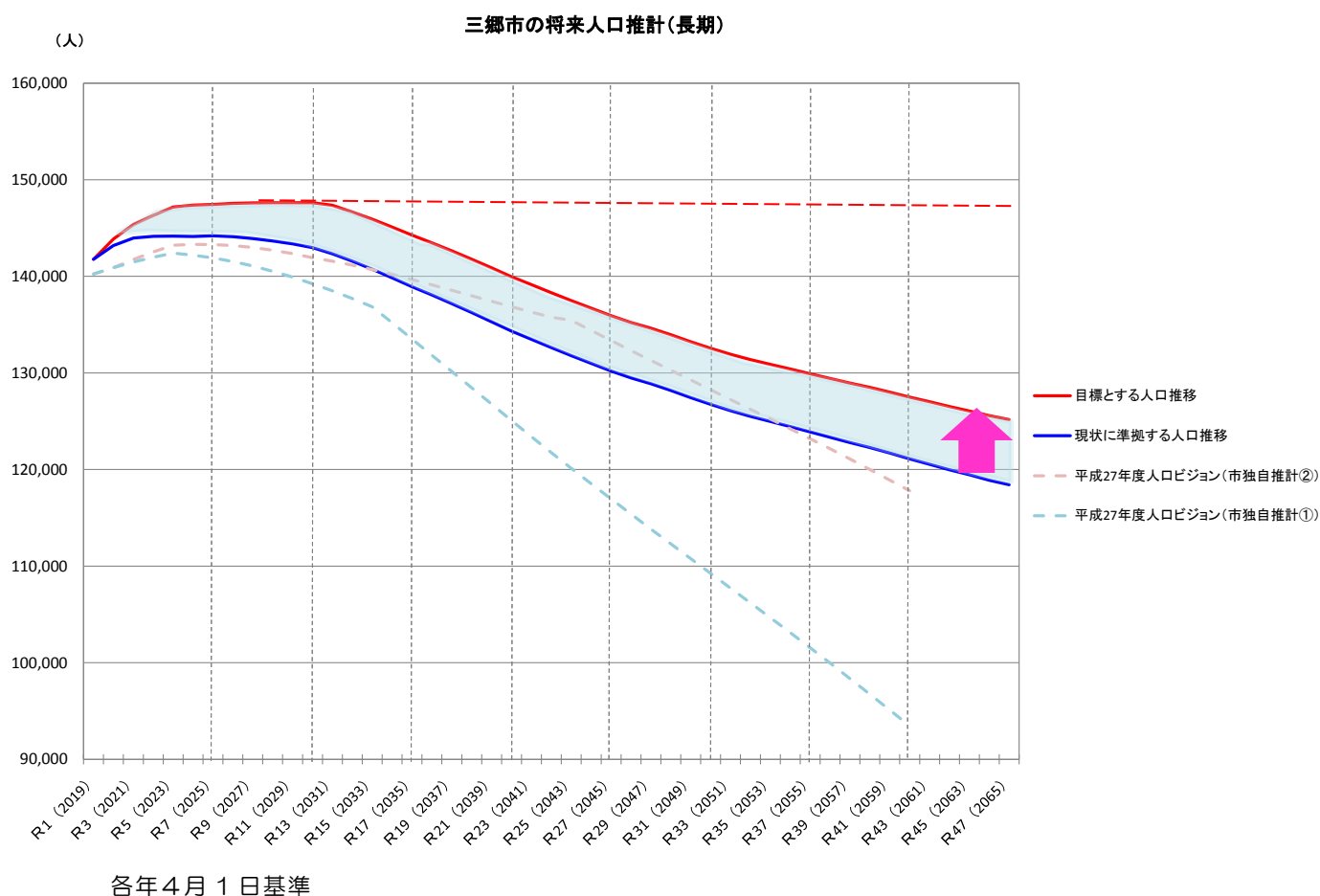
	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	(人) 計
中央地区	600	450	430	430	380	380	250	250	250	250	250	3,920
合計	600	450	430	430	380	380	250	250	250	250	250	3,920

* 今後、市のまちづくりの進展に伴い、インターチェンジ周辺や駅周辺等において更なる人口増加の可能性があります。推計作成時点（令和元年8月時点）においては推計には含めておりません。

2. 推計結果

(1) 全体推計結果

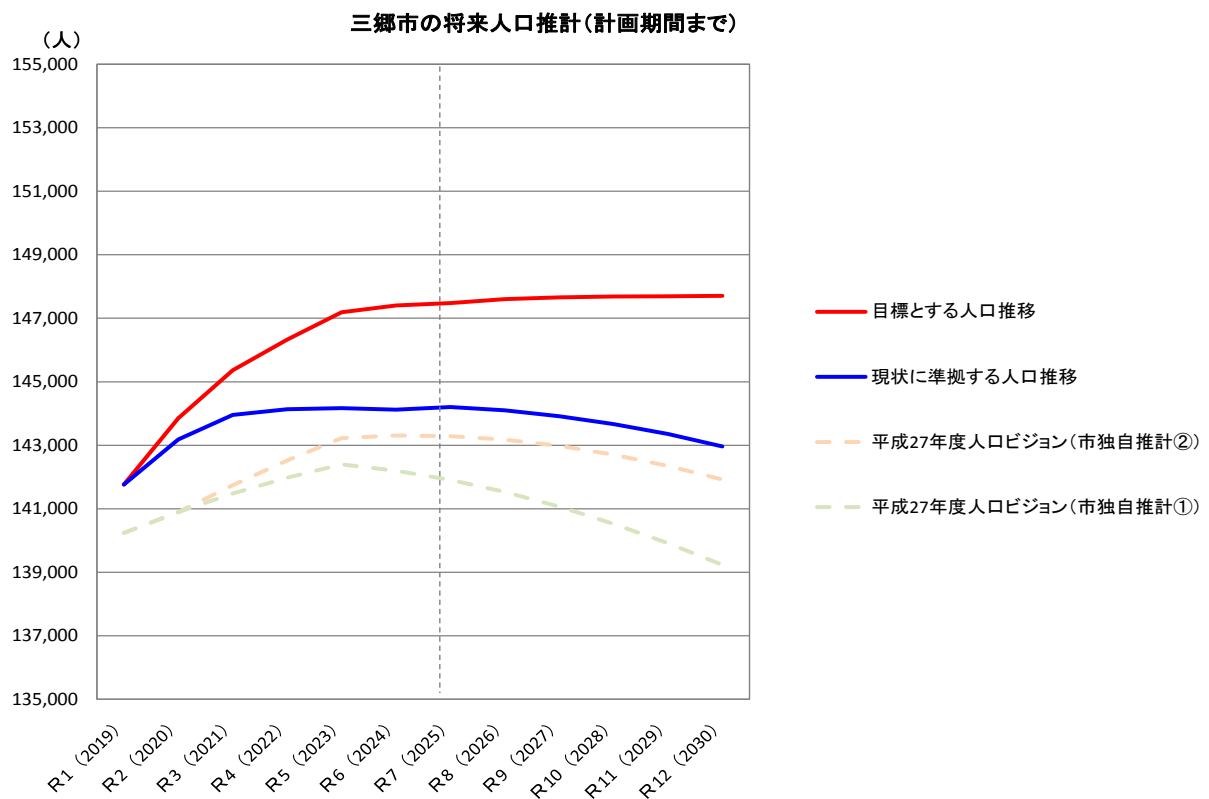
- ・本市の将来人口を推計すると、ピークの年度は異なるものの、いずれも今後 10 年 前後に人口が減少傾向に転じることが予測されます。
- ・現計画の人口ビジョンと比較すると、この 5 年間で若い世代が多く本市に転入して きたこともあり、おおむね現計画を上回ります。



(参考) 国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計

- ・国立社会保障・人口問題研究所では、平成 29 年度に都道府県の将来人口（市町村の将来人口推計）を行っています。
- ・しかし、令和元年（2019）時点で、1,200 人ほど人口が下回っている実情から、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口は上記のグラフには未掲載としています。

- ・本計画期間の人口でみると、「目標とする人口推移」の方が人口が多くなります。
- ・ピーク年度は、「目標とする人口推移」で令和 12（2030）年、「現状に準拠する人口推移」で令和 7（2025）年となっています。



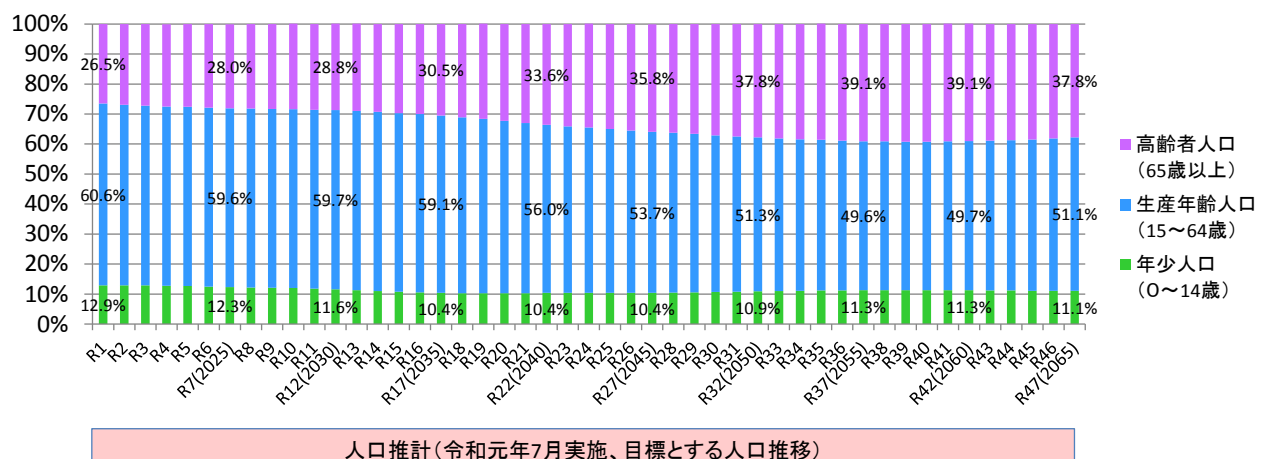
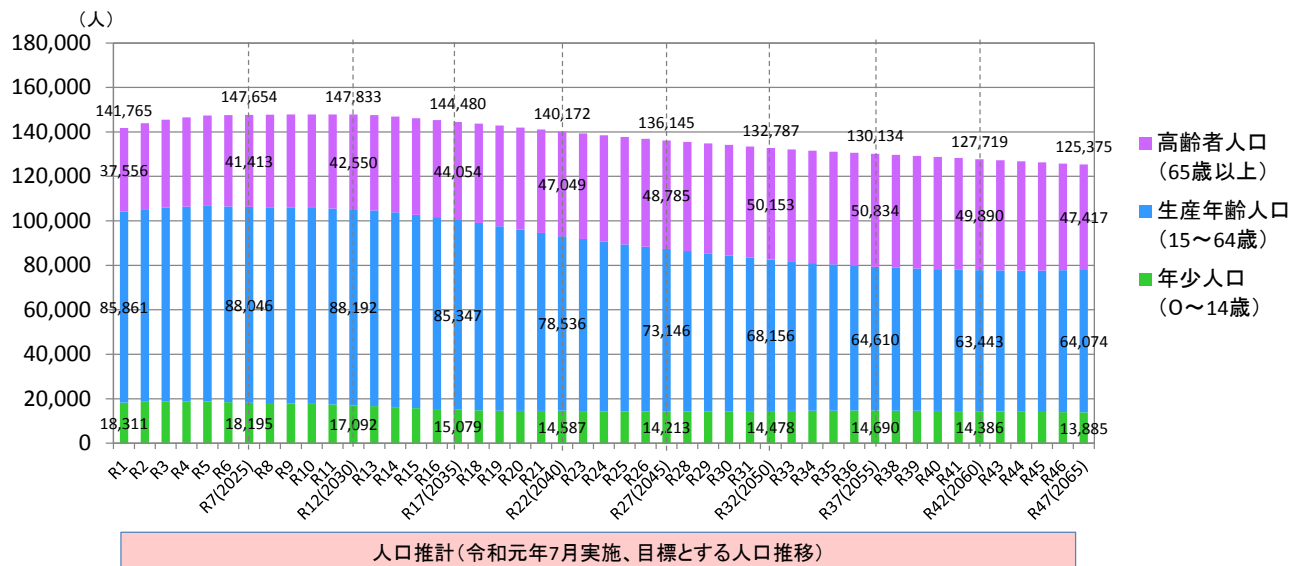
各年4月1日基準

	(人)											
	令和1 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)
目標とする人口推移	141,765	143,931	145,552	146,516	147,379	147,586	147,654	147,766	147,813	147,830	147,831	147,833
現状に準拠する人口推移	141,765	143,261	144,144	144,326	144,358	144,309	144,393	144,291	144,109	143,861	143,548	143,159
平成27年度人口ビジョン(市独自推計②)	140,239	140,894	141,743	142,524	143,227	143,307	143,290	143,179	142,982	142,703	142,348	141,920
平成27年度人口ビジョン(市独自推計①)	140,239	140,894	141,479	141,980	142,397	142,198	141,906	141,527	141,065	140,526	139,913	139,232

(2)「目標とする人口推移」における年齢階層別人口

- ・年少人口比率については、現在は 12.9%です。今後一度低下しますが、「目標とする人口推移」では合計特殊出生率が改善される見込みで推計を行っているため、令和 28（2046）年から再度上昇することが見込まれます。
- ・生産年齢人口比率については、現在は 60.6%ですが、「目標とする人口推移」では令和 41（2059）年以降ゆるやかに上昇していくことが予測されます。
- ・高齢者人口比率については、現在は 26.5%ですが、少しずつ高齢化が進み、35%を超えることが見込まれます。

◆三郷市の人口の推移と今後の予測（「目標とする人口推移」）



資料：住民基本台帳人口

(3)「現状に準拠する人口推移」における年齢階層別人口

- ・年少人口比率については、現在は 12.9%です。今後一度低下しますが、令和 26（2044）年から再度上昇することが見込まれます。
- ・生産年齢人口比率については、現在は 60.6%ですが、「現状に準拠する人口推移」（合計特殊出生率 1.35 固定）では令和 42（2060）年以降ゆるやかに上昇していくことが予測されます。
- ・高齢者人口比率については、現在は 26.5%ですが、少しずつ高齢化が進み、一時的に 40%に近づくことが見込まれます。

◆三郷市の人口の推移と今後の予測（「現状に準拠する人口推移」）

